

海況速報

平成9年度 第6号(通算 No.60)
平成10年4月6日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水試海洋部 0135-23-4020

2月上旬～3月上旬の海況

【日本海海域】

時化のため、桧山沖合の観測点は欠測が多くなりました。

本道西岸には、暖水渦(中心:200m層水温4℃以上)が積丹半島北西沖に形成されたようです。また、天売・焼尻島周辺から以北の本道沿岸側に冷水域(200m層で水温2℃以下の範囲)が形成されています。

水温について見ると、北緯44度30分以北の海域では各層、累年平均(*1)に比べ約-1℃となっているところが多くなっています。積丹半島から津軽海峡にかけての沿岸側では、水温は累年平均に比べ、-2～0℃の範囲内にあるところが多くなっています。

余市における12月下旬以降3月下旬までの沿岸水温(旬平均)は、平年値に比べ、12月下旬の+1.5℃から2月中旬の-1.1℃(「かなり高い」から「かなり低い」)まで低下し続けた後、-0.7～0℃(「やや低い」から「平年並み」)の間で推移しました。

【道東太平洋海域】

今回、海水がオホーツク海から根室半島沖まで流出してきていたため、根室半島沿岸寄りの観測点が欠測になっています。

道東太平洋海域の各層は、水温が3℃以下になっているところが広がり、親潮に広く覆われるようになりました。しかし、前回(12月)この海域にあった大きな暖水塊(中心:200m層水温6℃以上)は、依然として勢力を保ち続け、前回とほぼ同じ位置にとどまっています。また、道東沿岸の表面・50m層には0℃以下の沿岸親潮(*2)が根室半島から襟裳岬まで流れていますが、この沿岸親潮の一部は、根室半島沖で沖合の暖水塊の北縁に達するまで南下しています。

水温について見ると、暖水塊を除く沖合の海域では、ほぼ累年平均並のところが多くなっていますが、道東沿岸沿いでは、各層とも累年平均に比べ-2～-1℃の範囲内が多くなっています。

【道南太平洋海域】

道南太平洋海域では、水温2℃以下の沿岸親潮が道東沿岸から襟裳岬を回り、100m以浅では襟裳岬から噴火湾湾口部まで沿岸沿いに、表面では恵山岬以北の広い海域に流入してきました。特に、浦河沿岸の表面では水温が氷点下になっています。

水温について見ると、累年平均に比べ、恵山岬以北の北海道沿岸の50m以浅で-2～-1℃、

津軽暖流が流れている下北半島沿岸部の各層で-2～0℃のところが多く、その他では100m層以深で0～+2℃の範囲内のところが多くなっています。

【オホーツク海海域】

海氷期のため観測がありません。

| | 資 料 | 〔観測期間〕 |
|---------------|-----|-----------------------------|
| 釧路水試 (北辰丸) | | 平成10年2月24日～同3月1日 (道東太平洋海域) |
| 函館水試 (金星丸) | | 平成10年2月17日～同2月23日 (道南太平洋海域) |
| 稚内・網走水試 (北洋丸) | | 平成10年2月16日～同2月18日 (道北日本海海域) |
| 中央水試 (おやしお丸) | | 平成10年2月2日～同2月3日 (道西日本海海域) |
| 中央水試 (おやしお丸) | | 平成10年2月23日～同2月25日 (道西日本海海域) |

*1: 平成元(1989)年～平成9(1997)年までの平均値を使用しました。

*2: オホーツク海の海氷の融氷水を含む親潮として特に沿岸親潮という名前が付けられています。

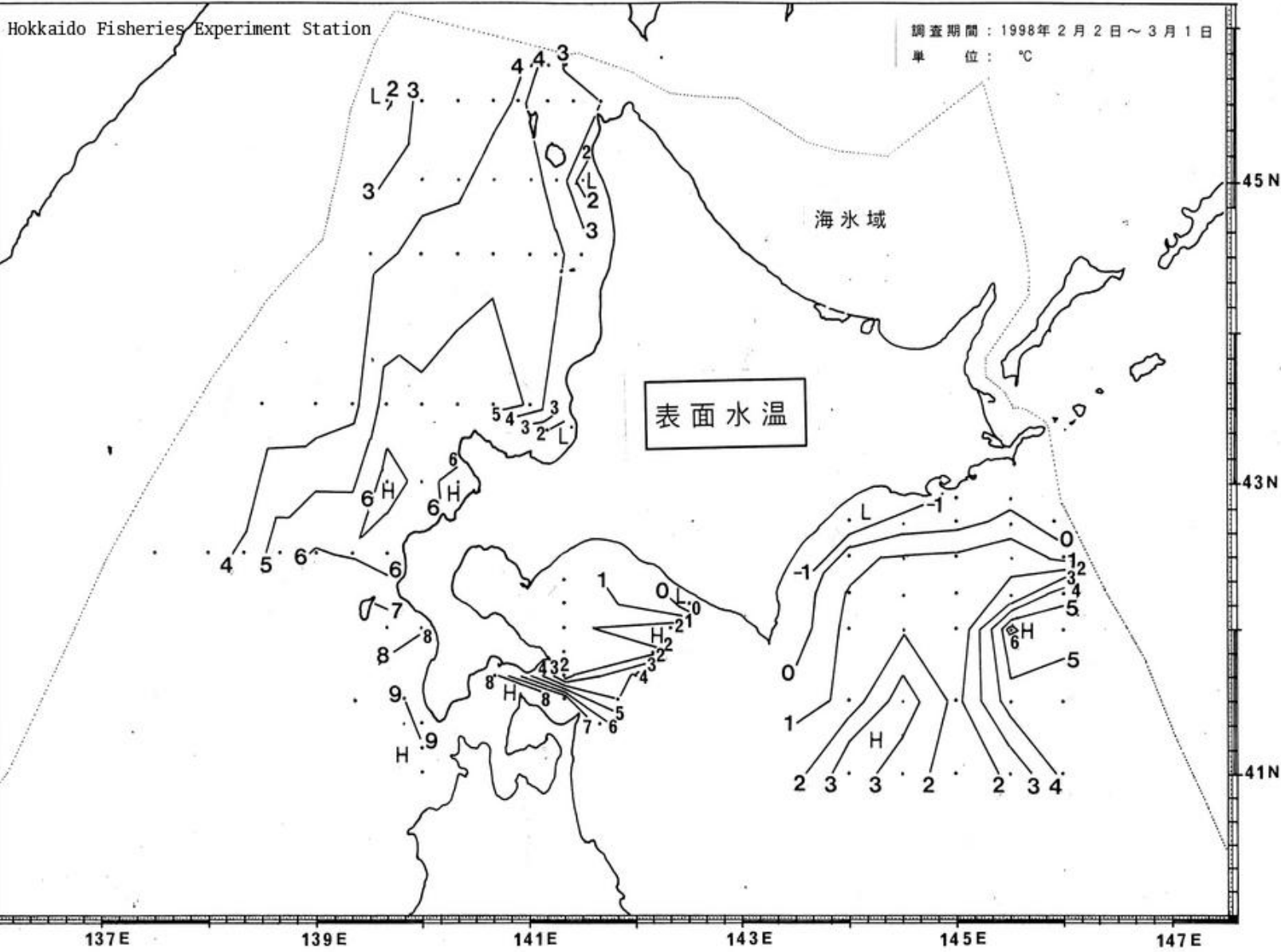
(中央水試 海洋部)

Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1998年2月2日～3月1日
単位：℃

表面水温

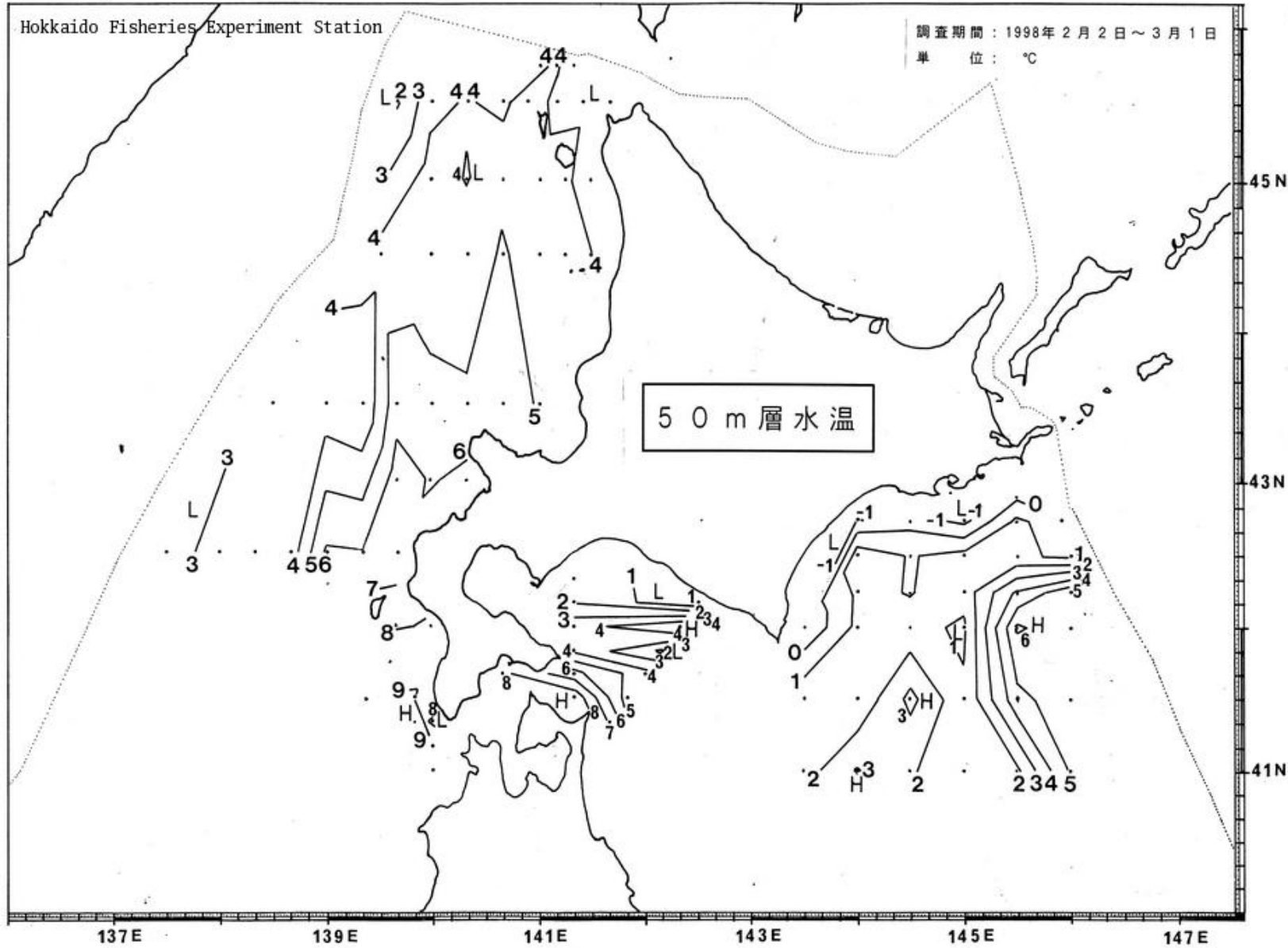
海水域



Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1998年2月2日～3月1日
単位：℃

50 m 層水温

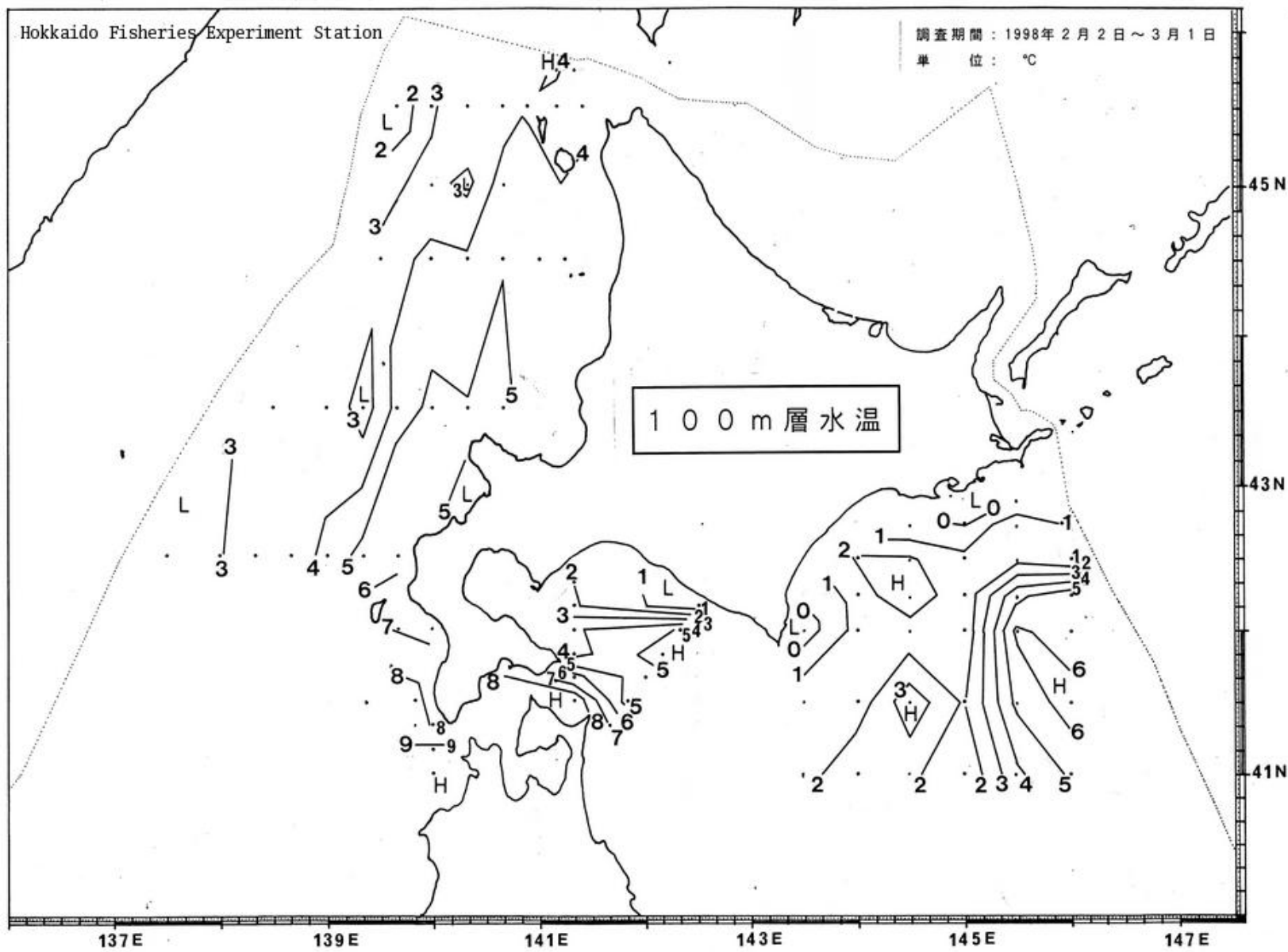


Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1998年2月2日～3月1日

単位：℃

100m層水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1998年2月2日～3月1日
単 位：℃

200 m 層水温

